



5月号 令和5年4月28日発行

# 窪田小だより

横浜市都筑区窪田南町694番地 [Tel.911-0149]  
[<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/>]



## 学校における3の法則

### ～子どもたちの学びや気持ちに応える教師の役割～

校長 伊藤 智樹

新しい学年・学級になって3週間が過ぎました。この間子どもたちは、新しい環境に慣れてきたころではないでしょうか。昨年度までとは違い新型コロナウイルスへの対応も徐々に緩和され、全校児童が集まる機会も多くなりました。5月8日からは新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけも季節性インフルエンザ感染症と同等になるとの報道もあります。コロナ禍以前もインフルエンザ流行時には、異学年交流を一時的に中止にしたり、給食時の座席の位置を一斉に前向きにしたりして、感染対策を講じてきました。インフルエンザウイルスや新型コロナウイルス、ノロウイルス等を根絶することは難しいです。コロナ禍以前と同様に感染状況に応じて対応していきたいと思います。

「3の法則」という言葉があります。3日・3週間・3か月・3年という節目までにすべきことは何かなど人材育成の考え方で用いられる用語です。

子どもたちは、真新しい教科書を手にとると、興味津々に中を開いて見たり読んだりしていました。3年生になると、社会科、理科、総合的な学習の時間、外国語活動等の新しい学習がスタートします。先日3年生が校庭や中庭で生き物を見つけて観察している姿を見かけました。理科の最初の単元である「生き物をさがそう」の学習中でした。私が声をかけると「今理科の学習で、生き物の観察をしています。」と楽しそうに答えてくれました。「草の下も見ます」「カナヘビがいたよ」「田んぼに何かいるかな」などグループごとに意欲的に観察していました。また5年生では社会科学習で地球儀を用いて距離や方位について自作の紙テープをもとに確かめていました。自作の紙テープを使うことで



子どもたちの学びがより具体的になります。教科担当教員の意図的な指導です。国々の名前を一緒に確認していました。私もその子どもたちの姿を見て嬉しくなりその場で「地球儀でグリーンランドを見てごらん。地図のグリーンランドと比べてどうかなあ？」と全体に質問すると「地球儀ではグリーンランドは小さくなっている」「あ！南極も違う！」

先ほど述べました「3の法則」。これは学校でも同じことが言えます。入学・進級といった環境の変化により、子どもたちは昨年度までとは違った新たな気持ちで4月7日スタートします。最初の3日間で子どもたちは先生方の人柄、新しい環境、人間関係やルール、学習活動の概要をつかみます。新しい教科書を開いたときの子どもたちの気持ちも同様です。教師もこの3日間で「学級開き」という活動を通して子どもたちにメッセージを伝えます。3週間目までに子どもたちのフレッシュな気持ちを大切にしながら、学年・学級づくりを具体的に行います。次の3か月目までに学年・学級で練り上げてきた計画をもとに活動します。そして活動の検証を行い、必要に応じて活動の軌道修正をすることもあります。時期としては、4月12日頃・5月連休前・7月の夏季休業前になります。

入学・進級した時の子どもたちが抱いた期待感、新しい環境への不安な気持ち。私たち教職員の使命はそのような子どもたちの気持ちに寄り添いながら子どもたちの学びや気持ちに応えることにあります。引き続き子どもたちの成長に向けて教職員一同力を合わせていきたいと思ひます。